

ヤジロベー死亡三昧

ごうけつ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

死亡能力と無限生き返り能力を得た不死身ヤジロベエの残酷話

目次



ぜえはあぜえはあいながら必死に立ち上がるとヤジロベーの死の瞬間です。

ベジータはギャリック砲でヤジロベーの頭をあとかたもなく消しさりました。

ヤ「ぎやああああ……」

ヤジロベーが殺されるのを見ていた悟空と悟飯。

ぱちぱちぱちぱち拍手喝采です。

ベ「どうだ、カカロット。貴様には到底出来ない芸当だろう」

空「そんなことねえよ。オラサイヤ人だぜ。なあ悟飯。

飯「はい、もちろんです。楽しそうですよね」

ベ「じゃあ、今度は貴様らがやつを殺してみろ」

空「いやったあ」

飯「へへへ、ありがとうございます」

ヤジロベーはほどなくして生き返りました。歩いていると悟空と悟飯にでくわしました。

ヤ「悟空、聞いてくれよ。ベジータの奴ひでえんだぜ。オレ、さつきベジータに殺されたんだ」

空「ははは、何言ってるんだ。オラにはベジータの気持ちよおく解るぞ」

ヤ「えっ」

悟空もヤジロベーの腹をさすりながら

「どうとう、オラがおめえのどてっ腹に風穴を開ける日がやってきたんだ」

ヤ「……………」

悟「死にやがれ、ブタヤロー！」

どてっ腹を勢いよく撃ち抜いていきました。

ヤ「どうおとおお」

それからはベジータと全く同じ攻撃、とどめに頭を吹き飛ばされたヤジロベー、死にました。

また生き返り今度は悟飯の番です。

飯「僕はベジータさんたちと違うやり方で殺しますよ」

悟飯はヤジロベーの両手を横に広げさせるとズドーン!

右腕を消し去りました。

ズドーン!

左腕、両足と消し去るとヤジロベーは地面に倒れました。あおむけで。

すると小さいエネルギー弾で少しずつ胴体を消し去っていきま

た。  
ヤ「うぎやあ!うぎやあ!うぎやあ!うぎやあ!うぎやあ!うぎやあ!  
!.....!.....!.....!

ヤジロベーにとつてはまさに地獄の時間が続きます。そして頭のみになると悟飯は

「くたばれええええええええ」

特大エネルギーで頭部消滅。

ヤジロベー死す。

再び生き返ったヤジロベーをベジータは必殺「きたねえ花火」で一瞬にしてこつぱみじんにして殺しました。

その日は3人に代わるがわる殺されまくりやっと夜解放されてカリン搭に戻りました。

着くとすぐカリン様が感想をたずねました。

ヤ「へへへへ、すげえ楽しかった。殺されるってのはいいもんだな」

カ「そうか、ところで何か欲しいものはあるか?」

ヤ「超神水つオレあれ飲んで死にてえ」

カ「欲張りなやつじゃな、そこにあるから好きなかだけ飲むがいい。」

ヤ「へへへ、サンキュ」ゴクゴクゴクゴクゴクゴクゴクゴク

「うぎやあああああああああああああああ」

ガクツ

ヤジロベーは死にました。

死ぬことが大好きになったヤジロベーは外ではベジータたちに殺され、カリン搭では超神水をくり返し飲み干し死と遊んでました。

そんなある日カリン様が

「ヤジロベー、新しい能力をやるうか？」

ヤ「どんな能力だ？」

カ「ずばり、即死能力じゃ」

ヤ「欲しいっ是非下さい。」

カ「この能力はな、ダメーじを受けた瞬間軽く力を入れる。そうすれば確実に死ぬる」

この能力を持って町へ行きました。すると悟空が

「ちよつと一緒に来てくれ」というのでついていきました。

悟空はある研究所に入っけいき博士に

「いいもん持つて来た。これでいいか？」

博「おおっなかなかいいブツじゃないか。気に入った。では引き取ろう。お金はいくらじゃな？」

悟「そうだな、2000万くれえ貰おうか。」

博「なんじゃ。ずいぶん安いのお。ではその4倍の8000万でどうじゃ」

商談成立。

博「さて、お前さんにはわしの実験台になって貰うぞ。もちろんお前さんは命の補償は無い。」

ヤ「はいつもちろんいいです。どんどんオレを殺して下さい。」

その実験とは死に到る病気の体における経過でした。

機械に入れられ発ガン剤を大量に投与され実験開始。

ヤ「ぎゃああああああああああああああああああ」

ガン細胞が全ての内臓を侵します。

心臓がガン細胞で埋まるとヤジロベーは死にました。

生き返り実験は続きます。

肝硬変、心筋梗塞、脳卒中、血液凝固と。その度にヤジロベーの命が消滅してました。

ひととおり実験が終了すると博士は

「ごころうさん。君のおかげで貴重なデータを取れたよ。ところで協力してくれたお礼にこのわし自らの手で君を殺してやりたいのだがどうじゃ？」

ヤ「よろこんでっ」

博士は桶に水を貯めるとヤジロベーの頭を水に押し込みました。  
ガボガボガボガボガボガボガボ、  
ガクツ。

ヤジロベー溺死。

次は硫酸のプールに突き落とし、ヤジロベーは溶けてあとかたもなくな  
く消え去りました。

それで解放されたヤジロベー、町をふらふら歩いていました。する  
といかにも気の弱そうな太った男とぶつかりました。

男「何すんだよお」

しかしその声はあきらかに無理をしているような声でした。

ヤジロベーはすかさず

「ごっごめんなさいっどうか命だけは助けて下さい」

と命乞いをしました。もちろん演技ですが。すると男は

（こいつを殺して死体を持っていけばいじめっ子も僕を恐れるかも）  
と心で感じ

「うるせえ、お前を殺してやる。覚悟しろ」と言いグサツ！

ヤジロベーの腹に包丁を深々と突き刺しました。

ヤ「うっ」

それから腹をメツタ刺し、胸もかなり刺しました。そして

「もうそろそろ死んで貰うよ」

心臓のど真ん中を

グサリ！

するとヤジロベーは即死機能を使い死にました。

男「やっやったぞ。とうとう僕も人殺しが出来たんだ。バンザー  
イ」

男はいじめっ子のところに行き死体を見せました

。いじ「おっお前人殺ししたのか？ひええっもうお前には逆らわな  
いよ」

更にヤジロベーが歩いていると少女が近づいて来て

「ねえ、死んで」





ヤ「なんだ？このデカイ箱は」

カリン様が箱を開けると毒蛇がぞろぞろ16匹出てきました。

ヤジロベーはもうわくわく

「すげえ、毒蛇かよ。カリン様やるう」

カ「ふふふふ、これはただの毒蛇ではないぞよ。コブラの200倍の猛毒を持つバジリスクじゃ」

ヤ「カリン様、能書きはいいから早くこいつらに咬ませろよ」  
カ「いけえ」

蛇がヤジロベーの体を這って位置につきました。

カ「咬めえええ」

ガブツ！ガブツ！ガブツ！ガブツ！……

牙を深く突き入れ一気に毒を注入。

カリン様はここでヤジロベーに試練を与えました。

それは①悲鳴はおろか口も開いてはいけない。

②どんなに苦しくても手を喉にやってもがいてはいけない。

③のたうち回らず直立不動でいること。

ヤジロベーは

「わかった。やってやる」

と気合いを入れました。

その瞬間猛毒で体に激痛が走り毒がヤジロベーの全身をかけ回りました。

ヤ「……………」

目ん玉丸くしながらも必死で耐えてました。全身からあぶら汗を流して。

40分後カリン様が合図を送ると蛇はすぐヤジロベーの体を離れました。

その瞬間ヤジロベーは地面にドサツと倒れ息の根が停まりました。生き返ると今度はカリン様は地上に行き「飛び降りろ」と命令

。すぐダイブしたヤジロベー、

地面に全身を強打して即死。

死体はウパたちにプレゼントされました。

カリン様がカリン塔に戻るとヤジロベーはすでに次の死への準備をしていました。

首吊り自殺をしようというのです。縄に首をくくると思いつきり台を蹴っ飛ばしました。

ガクン。

見事にヤジロベーの首が縄によって絞められこれまた即死。

この首吊り死体はカリン塔の真ん中にずうっとオブジェとして飾られました。

町では一般市民に殺され、ベジータたちにも殺され、カリン塔でも自殺を含め命を奪われ爆死に射殺、溺死に絞殺、毒殺に焼死、病死に転落死、それに自殺とこの先無限に死のラビリンスでヤジロベーの死にざまを経験していくのでした。ちなみに最初の命乞いはもちろん演技であったのは言うまでもない。